

令和4年5月25日
教育相談・支援課

令和4年度における民間事業者との協働による
オンラインを活用した不登校児童・生徒への支援について

1. 主旨

令和3年6月の本委員会で報告した民間事業者との協働によるオンラインを活用した不登校児童・生徒に対する支援事業について、昨年度の実施状況及び今年度における取り組み内容について報告する。

2. 協働事業者

認定特定非営利活動法人カタリバ（杉並区高円寺南3-66-3）

※区との協力協定により実施。

3. 令和3年度の実施状況

(1) 対象児童・生徒

ほっとスクールに登録があるものの、通室につながっていない児童・生徒のうち、オンラインによる支援を希望したものの。

(2) 支援内容

タブレット型情報端末を利用し、毎週1回30分から1時間程度、協働事業者のスタッフ及びほっとスクールの職員が協働して、児童・生徒の興味や関心にあわせた学習支援や面談等を実施した。また、実施内容や参加日数、生活等の状況を学校及びほっとスクールに報告し、共有した。

<対象生徒の支援内容>

NO	通室先	学年(※)	主な学習・支援内容
1	ほっとスクール城山	中学2年生	興味がある国の異文化・異言語に関する意見交換、レポート作成等
2	ほっとスクール城山	中学3年生	受験に向けた面接対策支援、高校入学に向けた学習支援等
3	ほっとスクール尾山台	中学2年生	英語検定、漢字検定受験に向けた支援、オンライン教材 Qubena を活用した学習支援等
4	ほっとスクール希望丘	中学2年生	オンライン教材 Qubena、動画教材 e-board を活用した英語学習等

※学年は令和3年度時点

(3) 取り組みの成果と課題

○取り組み成果

- ・オンラインを活用することで、周りの生徒に影響されず、在宅から自身のペースで参加できる環境を築けた。
- ・興味や関心に合わせた学習支援を行うことで、学習意欲を高めることができた。

- ・オンラインを介して、協働事業者のスタッフやほっとスクール職員と関係性が築かれ、通室への意欲を高めることができ、すべての事例で実際の通室につながった。
- ・これまで学習や生活の状況が把握しづらかった生徒について、定期的に状況を把握することができ、ほっとスクールや学校と共有することができた。
- ・協働事業者と協働して実施することで、ほっとスクール職員とオンラインを活用した支援にかかるノウハウを共有することができた。

○今後の課題

- ・通室につながった回数については、生徒によって異なることから、より安定的な通室につなげていくためには、さらなる事例の積み上げと検証が必要となる。
- ・事例の積み上げには、支援の対象を広げていく必要があるが、スタッフ一人が支援できる人数には限りがあることから、支援体制の拡充が求められる。

4. 令和4年度の実施内容

昨年度の実施状況より、オンラインを活用した支援については、今年度も当該事業者と協力協定を締結し、支援体制及び支援対象者を拡充して実施する。

(1) 実施概要

①対象者

教育総合センター内の不登校支援窓口での相談支援において、オンラインによる支援を希望するものとし支援対象を広げる。

②支援内容

引き続き、児童・生徒の興味や関心にあわせた学習支援や面談等を実施する。また、支援の状況に応じて、不登校支援の担当職員を中心に、学校やほっとスクールと連携を図りながら、学校への登校やほっとスクールへの通室につなげていく。

③支援体制

教育総合センター内において、協働事業者のスタッフ3名を週3日3時間程度配置し、一人あたり月4回程度、オンラインを活用した支援を行う。

④支援対象者数

20名程度を想定

(2) 効果検証

支援の実施状況より、支援対象者数や参加状況、学校への登校やほっとスクールの通室につながった事例を把握・分析するとともに、協働事業者と事業の実施手法やノウハウを共有し、オンラインを活用した居場所や学習支援の有用性、適正な支援体制等を精査し、事業化の可能性について検討する。

5. 今後のスケジュール (予定)

令和4年	6月	協定締結
		事業施行実施の開始
	7月～	事業検証及び事業化に向けた検討